

令和５年度第２回 北九州市立美術館協議会議事録（要旨）

名称 令和５年度第２回北九州市立美術館協議会

報告

開館５０周年・次世代美術館の創生に向けた取組の推進
及び美術館分館の休止について

議事

議案１ 令和６年度の取組み内容及び評価指標について

開催日時

令和６年３月２６日（火）１４時～１６時

開催場所

北九州市立美術館本館 アネックスレクチャールーム

出席者

（会 長）菅 章	大分市美術館館長
（副会長）森山 秀子	久留米市美術館副館長
（委 員）林 光孝	北九州市立湯川中学校校長
外山 典子	北九州市立藤木小学校校長
野依 智子	福岡女子大学国際文理学部教授
原田 美紀	原田・川原法律事務所弁護士
三上 和子	北九州市女性団体連絡会議
大久保 大助	NPO法人K I D' s work 代表理事
桑園 英俊	社会福祉法人桑の実会理事長
速水 豊	三重県立美術館館長
立石 洋子	北九州美術家連盟
門田 彩	北九州市立大学文学部准教授
梅林 繁喜	北九州商工会議所総務課長
中島 徹	市民委員

（事務局）後小路 雅弘	北九州市立美術館 館長
田上 裕之	北九州市立美術館 副館長
菅 ゆみ	北九州市立美術館 普及課長
那須 孝幸	北九州市立美術館 学芸課長
阪上 壮一郎	北九州市立美術館 普及係長
大庭 徳治	北九州市立美術館 分館長
重松 知美	北九州市立美術館 学芸課係長
香月 敬二	北九州市立美術館 普及課
小松 健一郎	北九州市立美術館 学芸課

議事録（要旨）

事務局	議事の説明、傍聴者の確認（１名）、館長挨拶、会長挨拶
報告 開館５０周年・次世代美術館の創生に向けた取組の推進 及び美術館分館の休止について	
事務局	報告についての説明
会長	ただいまの説明についてのご意見・ご質問等ありましたら、お願いします。
委員	「２ 令和６年度新たな取組の概要」について、街なかアート、現時点での計画でよいので何か所くらい、どの場所で開催するのか、教えてほしい。２点目にワークショップ、これも年間何回くらい計画されているのか、場所はどこか、教えて下さい。昔、リバーウォークのワークショップに子供が参加してとても楽しい思い出がある。 同じく質問でVIPツアーも、どのくらいの頻度・回数で計画されているのか教えてほしい。２年度から３年度にかけては、かなりコロナの影響が回復して、展覧会開催日数や開催回数、入場者数は増えているが、コロナ前と比較して、３年度の入場者数はどの程度減ったままなのか。
事務局	街なかアート、ワークショップの回数や場所について、これからワークショップの講師等と協議するので、回数等はこれから協議して調整する。場所については、想定しているのはリバーウォーク北九州を中心に、勝山公園、小倉城、小倉城庭園等、市民の方が足を運びやすい場所を調整していく。また、プレミアムアートツアーは、まずは、このパッケージ自体を共同で開発するというのをメインに考えており、６年度は夜景観賞と音楽鑑賞、音楽鑑賞の場合は音楽のプロとの調整を図って、日程調整してツアーを組むという、一連のパッケージの開発を出来ればと考えており、それ以降、本格的な開始を考えている。
議題１ 令和６年度の取組み内容及び評価指標について	
事務局	議題１について説明
委員	避難誘導体制について、具体的に避難訓練とか、作品救出の訓練等をされていると思う。マニュアルなども作られているのではないか。具体的なやり方を教えて欲しい。
事務局	避難訓練は年１回行っており、来客誘導班や作品保護班等、各班に分かれて動きを確認している。
会長	能登半島地震を見ても、地震はいつ起こるか分からないが、防災マニュアル等は市でも設置していると思う。私は全国美術館会議の災害対策委員でもあるが、防災対策や被害後のレスキュー等、重要である。作品も人命もいろんなことが重要であるが、是非今後ともしっかりとやっていただきたい。
委員	大学生や高校生のボランティアとして参加を促すとあるが、具体的に大学生のボランティア参加はどのような方法を考えているのか。また年度募集型ボランティア制度の新設とあるが、何を期待して年度募集型を行うのか、説明して欲しい。
事務局	６年度の取り組みとしては、昨年度、ミュージアムツアーサポーターとして、ひびき高校美術部の部員や、北九州市立大学の学生さんに協力いただいたので、そういった方に、今後も引き続き、加入してもらおうと考えている。また、年度募集型

	については、気軽に美術館の活動に参加してもらい、特にSNS発信のボランティア等、入りたいときに入ってもらって、できなくなればご都合に合わせて抜けていただく等、もっと幅広く参加者を募りたいという考えである。
事務局	コロナ禍以前は市内の中学・高校の体験学習の場として、美術館も名乗りを上げ、毎年何人か受け入れていろんな仕事を体験してもらっていた。博物館実習は長年受け入れており、コロナ禍でも工夫しながら受け入れは継続してきた。
会長	ボランティアと言えば、マンパワー補填ととらえがちだが、むしろ教育普及的な理解者・協力者を増やしていく考え方も大切だと思う。私からの質問だが、継続自立型のボランティアと、年度募集型ボランティアとの関係について、一緒にいて指導的にやってもらうのか、全然別個の活動になるのか。運営の形を聞きたい。
事務局	現時点では、自立型、年度型別々に活動することにしている。
会長	自立型の方も年度型の活動に理解はされているのか。
事務局	自立型の方も年度型に応募してくる場合もあるし、年度型の方が自立型に入って図書収集活動やミュージアム・ツアーの手伝い等につながっている場合もあるので相互に連携はしている。
委員	今まで小学3年生がミュージアム・ツアーに参加していたが、市の予算が厳しくて、小学生も、英語村や平和のまちミュージアムに行く体験学習が全部無くなり、ミュージアム・ツアーもオンライン化になって、大変残念な思いをしている。オンラインツアーになった場合は、日時を指定して入ってもらうような形になるのか。また従来のミュージアム・ツアーは3年生が対象であった。当初は5、6年生がよいのではとの話もあったが、美術館の雰囲気を楽しんでもらうには3年生がよいとのことで3年生になった。今後、オンラインになってじっくり作品を鑑賞するとなれば、高学年の方がよいと思う。館の雰囲気を楽しむのは3年生がいいが、一つの作品をじっくり見るのは3年生には厳しいと思う。
事務局	対象の学年についてはご意見を踏まえて、どの学年がよいのか教育委員会と協議していく。
委員	ミュージアム・ツアーがオンライン化することについて、当然予算の制約もあるが、私は前向きに受け止めた。中学校にとっては美術館を往復する時間を捻出するのが難しい。オンラインになれば美術の時間中での短時間で活用出来る。美術の先生が美術館の所蔵品を認識したうえで、これで一つ授業を作ってみたいということで、授業をやり、学芸員に見てもらってコメントをもらうなど。いろんなことが出来ると思うので、是非中学校の教員の意見も取り入れながら進めて欲しい。
事務局	オンライン・ミュージアム・ツアーは、これから内容を詰めていって、令和6年度は試行実施、令和7年度から本格実施の予定である。高学年がふさわしいとの意見ももっともだと思う一方、これまで3年生の9歳児とのかかわりを専門的に突き詰めてきたので、高学年に上げるにはまた違う準備が必要となる。また中学校についても来館するのが難しい学年なので、そこにどうやって入っていくか、先生たちとの持続可能な協力体制等どうやって築いていくかを考えていたので大変参考になった。
会長	美術館は市長部局だが、学校教育とも密接な連携が必要であり、大きなテーマでもあるが、コロナ禍でオンラインが採用され、新しい展開が増えてきたということ

	で、新しい取り組みだと思う。それを促進しながらも、やはり本物を見てもらいたいと、この両方を何とか結び付けられるように、きっかけとしては関心を持ってもらう、それを美術館に足を向けてもらう方向に発展させていくことが重要と考える。
委員	「特色あるワークショップ、講演会の実施」の中で、市民センターと市関連施設との連携とある。この市民センターの出張講演の中に、同じようにオンラインの講演が可能かどうか。実際市民センターの講座は高齢者の方が多く、実際に美術館に足を運ぶのが難しい状況である。市民センターの講座もオレオレ詐欺の対策等、生活密着型のものが多く、またマンネリ化している。その中で文化芸術のニーズもある。美術館がオンラインで講座をやってくれたら、美術館に足を向ける一つのきっかけになると思う。そこで市民センターでもオンラインで講座をやってもらえるのか。またどこに相談すればいいのか。今後のやり方について教えて欲しい。もう一つ、オンライン・ミュージアム・ツアーのところで、来館が困難な児童のアート体験とある。そこで社会福祉施設の方々、特に障害を持っている方、身体障害であればバリアフリーで対応できるが、精神障害・発達障害の方について、例えば大人数が無理な方、光が厳しい、音が厳しい、空間の刺激に耐えられない等の方々が、社会福祉施設で、オンラインで美術を見ることが出来れば、日常の支援に生きてくる。こんな絵があるのかと。要望になるが、市民センターに加えて社会福祉施設も対象に加えて欲しい。
事務局	現状は市民センターへは出前講演で実際に出かけて対応している。オンライン・ミュージアム・ツアーが出来上がったら、仮に市民センターに設備が整っていれば可能だと思う。また予算が許せば、機材の貸し出しなども考えられると思う。 ライブの方が効果的な場合は出かけていくし、複数個所同時のような場合はオンラインの良さも出てくると思う。社会福祉施設についても是非広げさせていただきたいと思っている。特に先ほどの障害を持たれてこちらに来れないような方についても、美術館の使命の一つとして環境機会の提供を目指したい。 オンラインについては、1年をかけて勉強させてもらいながら取り組みを進めてまいりたい。
委員	令和6年4月から合理的配慮が一般企業にも義務化されて、例えばショッピングモールなどでも合理的配慮が求められている。本日の計画をみても、とても合理的配慮はなされていると思った。来館が困難な児童のアート体験等、とてもその視点にたった事項が盛り込まれている。社会福祉に関わる立場としてとてもいい取り組みだと感じたので、合理的配慮という言葉がこの中に入れば、アピール度が増し、そこに目を向けて取り組んでいることが一般の方に対しても伝わると思う。
委員	美術作品と図書のデータベース化であるが、着実に進めて、令和6年度には200点のデータを公開するとのことだが、図書資料のデータベース化と公開の予定があるのかどうか、もし予定があるならいつごろが目標か。もう一つ、所蔵作家、地元ゆかりの作家の作品・資料を調査するとのことだが、具体的にどういう作家が分かっている方があれば教えて欲しい。
事務局	データベースの公開については、本当は全作品を対象としたいところだが、そこまでは整理が間に合わない。秋に大コレクション展を開催するので、その出品作の情報を公開しようということで、原稿作成を進めている。その他の図書資料だがデ

	一タ入力が進めば来館者数は増えるかと言うとそう簡単ではない。デジタルと、実物を見に来てもらう導線・関連づくりが必要。美術に関心がなくても、森が好きとか建物が好きとか風景が好きとか、いろんな来方の提案も大切だと思う。また美術館の中だけではなく、外の草刈ボランティア等、募集すれば費用も下がるし市民もボランティアを通して美術館に来ることが出来る。いいことばかりではないと思うが。デジタルが入ることで、美術館が遠くなる可能性もある。やはりこの場所に来てもらうことが最も大事で、そのために絵だけの魅力ではなく、その他の来る口実づくりの開発も出来るのではないかと思った。
会長	データベースは本当に大きな問題で、北九州市立美術館に限らず、全国どこでも同じ状況である。国で分野横断型のジャパンサーチを始めたが、地方の美術館はそれに追いつかない。理由はマンパワー不足と、公開データの真正性を担保できるか、専門職業の倫理上の遅延が生じてしまう。一朝一夕には解決できないが何とか進めていかなければいけない課題と感じている。
委員	デジタル化が進めば来館者数は増えるかと言うとそう簡単ではない。デジタルと、実物を見に来てもらう導線・関連づくりが必要。美術に関心がなくても、森が好きとか建物が好きとか風景が好きとか、いろんな来方の提案も大切だと思う。また美術館の中だけではなく、外の草刈ボランティア等、募集すれば費用も下がるし市民もボランティアを通して美術館に来ることが出来る。いいことばかりではないと思うが。デジタルが入ることで、美術館が遠くなる可能性もある。やはりこの場所に来てもらうことが最も大事で、そのために絵だけの魅力ではなく、その他の来る口実づくりの開発も出来るのではないかと思った。
事務局	昨年の取り組みで、美術の森公園でブロンズ像が汚れているので、大分からブロンズ像の専門家を友の会パートナーズの負担でお呼びして、地元の高校生中心で美術館の職員も一緒になって清掃した。それを美術の森全体に広げていきたいが、ノウハウも得られて道具もそろったので、それを継続実施するのが一つの目標である。美術館開館当初は、美術の森を守るボランティアが清掃活動などもやっていたらしいが、継続が難しく途中で立ち消えになっている。
会長	公園内のブロンズ像は美術館の管轄ですか。
事務局	戸畑区のまちづくり整備課である。
委員	私も小中学校の子がいるので、子供が美術に関心をもっていることはいいことだと思っているが、一方で、それを来館にどうつなげるかが課題である。熱意を持った子供たちを美術館に向かわせる取り組みを考える必要がある。例えば両親を連れていけば子供にプレゼントを上げるとか、無料にする必要はないが子供たちの情熱がもっと向くようなことが、たんけんパスポートにプラスされるとよいかと、感想として思う。
事務局	前の協議会で、子供はたんけんパスポートがあるが、同行の保護者を減免する制度をつくってPRしてとの指摘もいただいた。我々もワークショップのチラシと同時にキッズ&ユースデーのチラシを配布し、夏休みの休館日を開けてご家族に楽しんでいただくプログラムを設けた。それにご意見をいただいたので、例えば友の会

	に入ってくださいと半額減免で何度でも来れるとの情報を入れて、多いときは1000人を超える家族連れに来ていただいたが、休館日をに開館すると人件費も必要なので、その兼ね合いもあるが、出来るだけそのような機会を作って充実させていきたい。
委員	長期ワークショップ「ぬいかけの植物園計画室」を継続し実施するとある。ワークショップに参加された方の意見や感想を聞かせて欲しい。
事務局	この企画は、2016年から続いているワークショップであり、10年続けることを目標に始めている。一般的にワークショップは単発で随時募集して、その時に集まって、数時間で終わる回あるいは、募集もかけずに通リかかりで参加して、何かを作ったり体験したりと、いうものが一般的だが、「ぬいかけ」は、同じメンバーが新旧入れ替わりで、10年間かけて一つのものを作り上げる、何を作るかも本人が決めていく、どんな風に方向転換していくかもわからない植物園を育てていく、そのような取り組みである。実際の植物園は樹木が成長して昨年と同じものではない。季節によって花も咲いたり枯れたり。そうした非常にライブ感あふれる形で、文字どおり成長していく、そのような形を心掛けている。当館にとっては様々な教育普及のあり方、時間軸を意識したワークショップである。それと対照的に単発のワークショップも幅広く、様々なジャンルで様々な興味に対して対応していくワークショップも行っており、出来るだけ多面的な内容を示していきたいと考えている。 参加者の感想であるが、子供たちも年々成長していくし、新しい子供も入るし、講師は同じなので、子供も作品も顔なじみになって、そういう意味では美術館が通うところ、帰るところ、そのような独特に気安さというか、そのような要素もあるのかと感じている。ワークショップは再来年度の夏に10年間の集大成として、子供たちと積み上げてきた成果を展覧会として公開する予定である。
委員	50周年を機にいろんな取り組みをされるとのことで、私には逆境をプラスに転換する発想が見えて大変心強く思った。それは、学校とのオンラインを計画していること、それに先生方がマイナス面もあると思うがプラス面としてとらえようとしていることが、私にとっては参考になった。オンラインもやり方だし、たんけんパスポート、あるいは家族で楽しめる日があるというのはいいなと思っている。
委員	入館者数20万人目標とあるが、本館だけだと昨年度は95,000人であり、その2倍なのでかなり高い目標ではないかと思う。取り組みをよりよくしていくために、若い人の意見を聞くことも大事だと思う。北九州市には4月からZ世代課が出来るが、若い人たちの意見を聞いて、取り組みをさらに確かなものにして欲しいと思う。学生が美術館に提案する窓口はどこにあるのか。
事務局	特に専門窓口は設けていないが、お気軽に美術館普及課にどのようなご意見でもお寄せいただければと思う。
委員	学生は提案したがっている。それをどこに話せばいいのか、だれか伝えてくれるのか、すごく気にかけていた。先日も美術館に行ったことがあるかと聞いてみたら、ない子が多かった。アクセスが不便なのも一因だろう。来館者をこれだけ増やすのであれば検討出来ればよいと思うが。
事務局	我々もSNSが大きな課題なので、Z世代の意見も聞いてやりたいと思っている。

会長	美術館に来る人は意外と普通に満足しているが、美術館に来ない人の考え方の聞き取りが非常に難しい。そのあたりも検討すればと思う。他にありますか。
委員	友の会としてはまず加入の促進。ミュージアムショップの充実が大きな問題点である。友の会への加入は美術館に関心を持ってもらう大きな形と思うので、今後も友の会の協議でこういった点、伺った様々な視点も入れながら、やっていきたいと感じた。
委員	この協議会で出てきた内容と同じく、どこの美術団体も大変な状況である。それは絵を描く人が減っているから。絵を描く人が減れば美術館に来る人も減る。興味を持って絵に向かう原動力を持つ人が徐々に減っている。理由の一つは高齢化、もう一つは漫画もそうだがスマホで見る時代。オンラインも大事だと思う。子供の参加がなぜ大事かと言うと、子供には親がついてくるから。親から祖母祖父友達と広がるから、子供が美術館に来てくれたらうれしい。市民講座でオンラインの話もあったが、それもありがたい。とにかくすそ野を広げないと美術館が成り立っていかないと思う。
事務局	本日、欠席の委員からご意見をいただいているので発表する。 ◎「立地の悪さ」への対応案 北九州市が取り組んでいる「おでかけ交通事業」のようなオンデマンド交通事業の導入を検討してはどうか。という提案について、 オンデマンド交通とは予約して乗り合いする交通機関で、今後活用していく必要があるのかもしれない。貴重な提案として今後研究していきたい。 ◎企画のデザイン 例えば松野一夫展では、学芸員の専門的な視点が際だって見応えがあったが、一方で地元の市民に親しまれるような郷土的な史料の存在がうまくアピールできていなかったのがもったいないと思った。企画段階で共催・後援するメディアと協議をするとか、または一般市民を対象にしたワークショップを開いて、展示手法やチラシの内容、タイトルを決める際に市民の視点を取り入れるなどの工夫をしてはどうか。という提案について、 広報物や市民へのアピールについての工夫が必要と考えている。 ◎「小学生無料」の是非 北九州市は昔から「招待券文化」があるとされるが、「対価を払って地域の文化をサポートする」という感覚を身につけさせるためにも、少額でも徴収することは検討してはどうか。小学生などの子どもをメインターゲットとした展覧会で、小学生が無料というのは美術館運営の観点から矛盾がないのか。展覧会の内容によっては小学生からでも料金を取ることも検討してはどうか。という提案について、 たんけんパスポートは北九州市独自の制度だが、この制度は市民に定着しており、来年度からのオンライン・ミュージアム・ツアーを来館につなげるためにも、活用を図りたいので、今すぐに小中学生の有料化は難しいと考えている。 ◎グッズ販売の形態について 開催中の展覧会の公式グッズについては、チケットカウンター横の常設物販エリアと一緒に販売するのではなく、企画展示室入り口付近に専用エリアを設けて売ってはどうか。常設エリアで売ると、展覧会の公式グッズかどうか分かりにくいと思う。という提案について、

	ミュージアムショップから離れた場所に設けることになるので、スタッフの増員が必要になり、なかなか運営上厳しく、すぐには難しいと考えている。 ◎インバウンド対策について 美術館サイトは、多言語表記にするのはすぐには難しいと思うが、せめて英語表記だけでも作れないか。という提案について、 英語表記もこれからの時代、必要と考えているが、日本語の内容を更新する都度、英語表記も翻訳の必要があり、経費が伴うので今すぐには難しいが、課題として検討していきたいと考えている。
事務局	すそ野を広げる事業については、オンラインで幅広い層にPRさせていただく、これを図りたいと思っている。併せて、第一弾としては、ジアウトレットで箏の演奏を行い、また小倉昭和館で、岡倉天心の映画を上映して、その後、学芸員から大観展の見どころを紹介するとか、そうした活動をしたいと考えている。
会長	今回、すごくチャレンジングな取り組みを出された北九州市立美術館の内容、だからこそいろんな突っ込みどころもあったが、本当に多くの意見をいただいた。特にオンライン・ミュージアム・ツアー等といったところ、非常に関心の高いところもあったし、そのような意見をどんどん出される委員さんも素晴らしいと思った。子供たち、また社会のことも考えた発言だと思った。ありがとうございました。今回の議題で、若干事務局の修正が必要な部分があった。市民センターの部分に社会福祉施設を加えることと、合理的配慮の文言を加えることだが、これについては修正案を事務局で作って皆様に郵送すると、それを確認した上で完成ということにしたい。よろしいでしょうか。
館長	本日は大変活発な、また具体的なご意見ご提案をいただき、私たちも励まされ、勇気づけられる思いがした。感想になるが、印象に残ったことが2つある。一つはテクノロジーの進展によってオンライン・ミュージアムなど、バーチャルなものが盛んになって、それに対して遅れをとらないように研究をすすめ活用を図るのは重要なことではあるが、この美術館という空間にやってきて、また建築を味わいながら、本物の美術に触れる体験のかけがえなさというのは、バーチャルな技術が進めば進むほど、逆に貴重になっていくものと思う。その辺の基本的な考え方をしっかり持ちながら、新しい取り組みにチャレンジしていきたいと思う。もう一つは、美術館の活動から疎外されがちな人々、それをどのように美術館の活動に取り込んでいくのか、これは当館だけではなく美術館界全体の課題である。先進事例も学びながら、研究しチャレンジしていきたいと思っている。